



令和2年度 施政方針及び当初予算の概要

福祉や教育、土木などの基本的な行政経費を計上する一般会計の本年度予算額は約396億3,500万円
で、前年度と比較すると、額にして27億3,500万円、率にして約7.4%の増となりました。

令和2年度のスタートにあたって（施政方針）



鴻巣市長 原口 和久

日頃より市政の推進にあたり、ご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、市主催

イベントの中止、公共施設の休館や貸館業務の休止、小中学校の臨時休校など、国の基本方針に基づく各種緊急対策を実施しております。市民の皆さんにはご迷惑をおかけしますが、人命を最優先とした感染症拡大防止への取組について、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が1年延期となりましたが、引き続き準備を進め、世界規模のスポーツイベントを市民の皆さんと一緒に盛り上げてまいります。

さて、令和2年度は、鴻巣市、吹上町、川里町の合併後、新たな鴻巣市としてまちづくりをスタートさせてから15周年を迎えます。その記念として、市民の日である10月1日に合併15周年記念式典を挙行し、市民の皆さんと一緒に、これまでのまちづくりを振り返り、鴻巣市の未来を思い描きたいと考えております。

市政の現状を捉えてみますと、「令和」という新たな時代を迎えた昨年度は「飛躍に向けた希望の一年」と位置付け、「つなぎます」市民の皆さんの熱い想いを「守ります」暮らしやすさナンバー1のまち、こうのすを「育てます」未来を担う「のすっ子」の3つの理念に基づき、「コウノトリの里づくり事業」「道の駅整備事業」、県と連携した「産業団地の推進」など重点事業の推進を図ってまいりました。また、「鴻巣駅東口駅通り地区市街地再開発事業」では、本年3月の「鴻巣宿おとり公園」の完成をもって、長年にわたる駅前整備が遂に完了を迎えたほか、「中学校給食センター整備

事業」についても、令和3年4月の利用開始に向け準備を進めております。そして、本年2月18日には「北新宿生涯学習センター・児童センター」がオープンし、多世代の交流の場としての利用のほか、区画整理事業地内における定住人口の増加が期待される所です。

令和2年度当初予算におきましても、重点事業として、「コウノトリの里づくり事業」では、飼育施設の建設を行い、コウノトリを受け入れる準備を進めるとともに、「道の駅整備事業」「産業団地の推進」についても、引き続き着実に推進してまいります。また、「公共交通維持事業」では、市民の皆さんが利用しやすい交通手段として、乗合型デマンド交通（仮称）このす乗合タクシーの実証運行を開始するほか、教育の分野では、積極的にICT環境の整備を推進し、小中学校に約3,000台の端末整備を行います。

このほか、妊娠から出産、子育てへの切れ目のない支援として、18歳年度末までの通院に係る医療費助成対象年齢の拡大や、市内2か所目となる新たな病児・病後児保育事業の実施、ひなちゃん子育て応援基金を活用した民間保育施設等への午睡ベッド等の購入補助を行うなど、質・量ともに充実した子育て環境の整備を進めてまいります。

また、「風水害対策関連事業」として、水害を想定した避難所の見直しや水害ハザードマップの更新、市役所敷地内への（仮称）防災備蓄センターの建設に向けた設計を行うなど、市民の皆さんの安全・安心の確保のため、更なる災害に強いまちづくりを進めてまいります。私は、合併15周年という大きな節目を迎える令和2年度を、「輝く未来へ向けて始動の一年」と位置づけ、新たなスタート地点に立ち、市民の皆さんが安心して暮らし、働き、子どもを産み育てることができるよう持続可能なまちを構築するとともに、次代を担う子どもたちが将来に夢や希望を抱きながら成長できる環境づくりを進め、少子高齢化という最大の難問に立ち向かってまいりますので、引き続き、市民の皆さんのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

